令和8年10月4日（日）
大崎タイムス掲載

タイヤ脱落事故防止へ

三塚タイヤ（古川）が作業講習会

大崎市古川休塚の三塚タイヤ（三塚義信社長）は2日、大型トラックのタイヤ脱落事故防止を目的とした安全作業講習会を同社で行った。大崎広域消防本部や市内外の運送事業者など25団体、約30人が参加し、事故を防ぐための正しいタイヤ交換、点検方法を学んだ。

大型車扱う25団体参加

国土交通省によると、大型車のタイヤ脱落事故は昨年度128件発生。11月から2月までの冬季に集中し、冬用タイヤ交換後1カ月以内の発生が多い。死亡事故につながることもあり、2023年12月には青森県の高速道路で走行中の大型トラックからタイヤ2本が外れ、路肩にいた作業員が1本の直撃を受けて亡くなった。

講習会は、主な事故発生原因となっているタイヤ交換作業の不備、交換後の保守管理不備をなくそうと、大手タイヤメーカーと共同で実施。メーカー担当者が講師を務め、ホイールやボルト、ナットを清掃、注油する必要性、日常点検で緩みを分かりやすく確認する方法などを指導した。

トレーラーの運転席部分「けん引車」を使った実演もあり、三塚タイヤの技術者が部品に異常がないか点検しながら取り外し、清掃する様子を披露。参加者は素早く丁寧な作業を間近で観察し、事故を起こさないための要点を熱心にメモしていた。

同市古川桜ノ目の大昇物流から参加した佐藤孝一業務設備課係長は「タイヤ交換は社内で行っている。きょう学んだことを生かし、これまで以上に事故防止に取り組みたい」と話していた。

三塚社長は「タイヤの専門家として、顧客や社員のけが、事故を防ぎたい一心。講習会が少しでも安全作業や安全運行の参考になれば」と語っていた。

大型車のタイヤ交換、点検、清掃を実演